

### 3 蘭印における輸入制限問題

444 昭和8年6月10日 在バタヴィア小谷(淡雲)総領事代理より  
内田外務大臣宛(電報)

我が方セメントの対蘭印輸出問題に關し従来の  
ポーナス制度に代え当業者間の出荷数量協定  
を成立させたいとの蘭印側意向について

バタヴィア 6月10日後発  
本省 6月10日後着

#### 第二一號

往電第一九號ニ關シ

三「セメント」ハ本月七、八、九ノ三日間ニ亘リ輸入歐商  
「パダン」側及政府側ノ聯合協議會ヲ開催ノ結果「ポー  
ナス」制度ハ日蘭双方ニ取り不満足ナルニ鑑ミ之ヲ廢シ  
新ニ小野田側ノ提案(三井大阪支店發在神戸「インター  
ナシヨ」代理店宛客年十月二十一日附及十一月廿八日附  
書面ヲ指ス)ヲ基礎トシ大体一ヶ年消費見積九〇〇、〇  
〇〇樽ニ對シ「パダン」側六〇七、五〇〇、日本側二九  
二、五〇〇樽ノ比率トシ當業者間ノ協定ヲ作ルコトニ意

445 昭和8年6月27日 在オランダ与謝野(秀)公使館事務取  
扱より  
内田外務大臣宛(電報)

コライン新内閣成立を機に再燃のおそれある  
蘭印での本邦綿布輸入制限問題につき我が方  
対策考究方意見具申

ハーグ 6月27日後発  
本省 6月28日前着

#### 第七九號

往電第七八號ニ關シ

蘭領印度ニ於ケル日本綿布輸入制限問題ハ客年十二月研究  
小委員會ノ報告(客年「バタビア」宛往電第六號)ニ依リ  
一時小康ヲ得タル處其ノ後「ツエント」綿業者ノ疲弊(本  
年一月ヨリ五月迄ノ蘭國綿布輸出額ハ數量ニ於テ一昨年度  
ニ比シ六割ノ激減ヲ示シ價格ニ於テハ更ニ大ナル減少ヲ見  
タリ)益々甚シク本年五月「コライン」内閣成立後當業者  
ヨリ政府力蘭印ニ於テ本國ノ利益ヲ擁護スル爲強キ政策ヲ  
實行センコトヲ要望スルノ聲漸次高マリ居ル現狀ナリ  
一方「コライン」首相兼殖相ハ從來自由貿易主義ノ急進論  
者ナルモ一般輿論ハ非常時内閣力經濟問題ニ關シ蘭國ノ傳

見一致シ右協定成立前ニ於テ迷惑輸入ノ弊害ヲ防止スル  
爲緊急手段トシテ茲ニ、三週間以内ニ輸入割當ニ關スル  
總督府令案ヲ參議會ニ提出スルニ至ルヘク其ノ實施期間  
ハ約三ヶ月ニシテ六月七日迄遡及スルコトトシ前記協定  
成立シテ其ノ必要ナキニ至ラハ廢止スヘシ輸入商ニ對ス  
ル輸入割當ハ大体客年四月一日ヨリ本年五月一日ニ至ル  
數字ヲ基礎トシ來ル十四日確定セラルヘシ右終ツテ「イ  
ンターナシヨ」ハ多分同日又ハ十五日小野田側(三井)  
ニ對シ電報交渉ヲ開始スヘク他ノ輸入歐商ハ夫々日本取  
引先ニ對シ説明的電報ヲ發スヘシ本件ハ日本側ノ提案ヲ  
基礎トスルモノナルノミナラス六〇〇、〇〇〇樽ハ「パ  
ダン」製産能力ノ五割ナルコトニ鑑ミ日本側ノ好意的考  
慮ヲ熱望スルモノニシテ兩國協調ニ關スル「テスト、ケ  
イス」ト看做シ得ヘシ  
本電ハ先方希望ニ依リ本省限り一切他ニ轉電セス尙本省  
ニ於テモ前記「インターナシヨ」其ノ他ノ電報カ本邦ニ  
到着スル迄一切外部ニ發表ナキ様希望ス右爲念申添ユ

統的政策ヲ一變スヘキコトヲ期待シ居リ新内閣ノ施政方針  
中ニモ之カ用意アルヲ窺ハシムルモノアリ惟フニ蘭國トシ  
テハ倫敦會議ノ成果ニ期待シ同會議ニ於テハ貿易障壁撤廢  
ニ關スル急進的意見ヲ執ルヘキモ一方同會議ニ於テ満足ナ  
ル結果ヲ得サル場合ニハ從來ノ政策ヲ變更スルノ決意アル  
モノト觀測セラレ此ノ場合蘭印ニ於ケル本國綿布保護  
(「クオータ」制度タルヤ本國トノ特惠關稅タルヤハ素ヨ  
リ豫斷シ難キモ)モ實現スルニ非サヤト愚考セラル  
殖民省産業部長カ極秘トシテ小官ニ『「コライン」殖相ハ  
果斷ニシテ實行力ニ富ミ蘭印經濟問題ニハ特ニ精通シ居リ  
日本綿布ノ制限問題ノ如キニ付テモ何故ニ早く適當ノ措置  
ヲ採ラサルヤト自分ニ語りタルコトアル程ナレハ日本綿布  
ノ輸入制限力蘭國ノ利益擁護上必要ナルニ於テハ之ヲ斷行  
スルニ躊躇セサルヘク蘭國トシテハ近キ將來ニ於テ從來ノ  
政策ニ變更ヲ加フルヲ餘儀無クセラルルヤモ知レス』ト内  
話シタル次第モアリ早晚本問題ハ再燃スルニ非サヤト憂慮  
セラルル處素ヨリ本件ハ倫敦會議ノ成否トモ關聯スルモノ  
ニシテ差迫レル問題ニハ非サルモ早キニ及ンテ之カ對策ヲ  
講シ置クコト肝要ナルヘク豫メ日蘭當業者間協議等ノ方法

ニ依り有効的解決ヲ計リ輸入制限ノ實現ヲ阻止スルコト適當且可能ナリト存スルニ付此ノ點ニ關シ御考慮置相成様致度僭越乍ラ卑見申進ス  
在倫敦齋藤公使ニ轉報セリ  
「パタビア」ニ轉電シ「スラバヤ」、「メダン」ニ轉電セシム

446 昭和8年7月10日 在スラバヤ姉齒(準平)領事より  
内田外務大臣宛(電報)

蘭印セメント関係当業者との出荷比率交渉に  
際する我が方当業者方針について

スラバヤ 7月10日後発  
本省 7月10日後着

第五六號

貴電第二四號ニ關シ

三井支店長ハ輸出協會ヲ代表來ル十四日「パタビア」ニテ「バダン」代表ト會合出荷比率等交渉開始ノコトトナリタルニ付不取敢我方態度左ノ通打合せタリ  
一、今後一ケ年ノ消費高ノ見積及「バダン」トノ比率ニ付テ

六右協定有効期間ヲ一ケ年トシ試験スルコト  
右御參考迄  
蘭、「パタビア」、「メダン」、へ暗送セリ

447 昭和8年7月18日 在スラバヤ姉齒領事より  
内田外務大臣宛(電報)

蘭印セメント関係当業者との出荷比率交渉に  
おける蘭印側輸入商社の取扱い方針について

スラバヤ 7月18日後発  
本省 7月18日後着

第五七號

往電第五六號ニ關シ

十四日三井支店長發大阪宛電報ハ既ニ御承知ノコトト存スル處輸入業者協會(主ナル會員ハ蘭人商社四獨逸人商一)組織ノ表面上ノ理由トシテハ(一)本邦製造家カ「ポーナス」支拂ヲ條件ニ販賣スルコトヲ申合せ乍ラ之ヲ勵行シ得サリシコト(六月七日迄ノ未拂者十件ノ内邦人五件アリト)(二)新嘉坡其他ヨリ蘭印ヘノ再輸入及(三)他外國品ノ輸入防遏上右協會員ノミカ輸入スルコト絕對必要ナルコトヲ指摘シ居

ハ今回輸出協會ヨリ接到セル指令(内容省略ス)ニ基キ「バダン」ト會合前豫メ主ナル當地輸入業者ト「パタビア」ニテ意見交換其上必要アレハ大阪へ打電更ニ指揮ヲ俟ツコト

二、消費量ハ値段ニ關係アルコト勿論ナレハ蘭印ニ於ケル販賣價格協定ノコト

三、今回ノ總督府令ハ新協定成立シ我輸出協會カ比率ニ依ル輸出手續等確立シタル時ハ最早存立ノ必要無キモノナルニ付之ト同時ニ該法令廢止方經濟委員會ヲ通シ政府ニ申入ルルコト

四、當蘭印輸入業者ニ割當ツヘキ比率ヲ定ムルトセハ本邦側ノ獲得セル出荷總量ニ對シ從來ノ各輸入業者取扱高ニ依リ按分的ニ定ムルコト公平ナルヘキカ之本邦製造業者ト輸入業者間ノ問題ナルヲ以テ三井支店長ノ任務ハ我輸出協會ト「バダン」トノ出荷比率及販賣價格協定ニ限ルヘキコト  
五、原則トシテ第四項ノ建前ナルモ我「セメント」ノ輸入販賣ニ努メ居タル當業者ノ利益ヲ無視スルトキハ本協定ノ成立ニ甚大ナル障礙ヲ來スヘキヲ以テ輸入業者トハ絶エス聯絡ヲ取ルコト(現ニ實行シ居レリ)

リ政府亦之ヲ認メタル由ナリ併シ實ハ之等輸入商社ノ當地ニ、三支配人ハ異口同音ニ若シ日本ノ輸出協會ノミカ比率ヲ確保スルニ於テハ遂ニ邦人大商社ノ爲ニ代理權ヲモ取ラルル虞アリト内話シ本官カ其誤解杞憂ヲ説明セルモ現ニ此傾向アリト主張スル點ヨリ見レハ寧ロ一面脅威ヲ感シ居ル結果ナリトモ觀察セラルルカ他面ヲ穿テハ彼等ハ別ニ輸入比率ヲ握リ後日他外國「セメント」ヲモ取扱フ自由ヲ留保セントスル魂膽ナリトモ見受ラルル故ニ我各製造家ハ私的比率協定ノ成否ニ拘ラス此際速ニ現在關係アル輸入業者トノ間ニ(一)他外國「セメント」ヲ取扱ハサルコト(二)輸入業者ノ取得セル比率丈ケハ是非輸入スルコト(此項ナケレハ當分其在庫品ノ値上リヲ待ツ爲輸入減少ノ虞アリ)

(2) 二條件ヲ挿入シテ契約スルコト最モ肝要ナリト思考ス  
尙我輸入商社ノ「セメント」輸入ニ關シ現ニ問題アリ必要ノ手段ヲ講シ居レリ(委細公信)唯邦人商社中六月七日前ノ「ポーナス」未拂者及三菱(三)販賣者ニシテ輸入業者ト認メラレサルモノノ如シ)ノ輸入業者協會加入ハ至難ナルヘキモ兎ニ角三井支店長八月上旬「パタビア」ニ於ケル細目協定ノ際盡力ヲ試ムル管尙又我輸出協會カ政府ノ援助

ヲ得テ輸出比率ヲ管理スル以上蘭印政府カ別ニ輸入業者協會會員ノミニ輸入許可スヘキ規則ヲ制定スル必要ナシト存スルモ三井支店長ノ得タル印象ニテハ法理論ハ別トシテ之ヲ阻止スルコト事實上至難ナリトノコトナリ如何取計フヘキヤ何分ノ儀御回電アリタシ

次ニ昨十七日三井支店長發大阪宛電報ハ前顯同支店長ノ大阪宛電報ヲ基礎トシテ本問題解決スル場合ノ參考案トシテハ實際的ノモノト存セラル爲念

又「パダン」及日本側ノ比率ニ付我輸出協會ノ指令ヲ待チ細目協定ニテ取極ムルコトナリ居ルモ前者ハ(輸)出ニ最少限六十萬樽ヲ讓ラス消費量九十萬樽ノ基礎ハ蘭印政府「パダン」及輸入業者トモニ主張シ居ル由御參考迄

蘭、「バタバヤ」、「メダン」ニ暗送セリ

448 昭和8年7月26日 在バタヴィア小谷總領事代理より  
内田外務大臣宛(電報)

蘭印非常時輸入制限令案の国民参議会への提出について

蘭印との貿易問題などに関するオランダ外務大臣との会談について

ハーグ 8月7日後発  
本省 8月8日前着

第八八號

七日歸任挨拶「グラフ」外務大臣ト會見ス

一、經濟會議ニ關シ雜談ノ後右ニ關聯シ本使ヨリ右會議中止ノ今日自然日蘭通商問題ニ考慮ヲ加フル必要アルヘキ處日印關係ニモ鑑ミ蘭印トノ貿(易)ニ付日本側ニテ充分注意ヲ加ヘ居ル次第ナルカ蘭印側ヨリ見レハ又苦情ヲ有セラルヘク時々之ヲ耳ニシ居レリ然レトモ日蘭親善關係ニ鑑ミ必ス妥協ノ方法ヲ見出シ得ヘク從テ蘭國側ニ於テ有セラルル苦情ハ出來得ル限リ速ニ在蘭印領事ナリ本使ナリ日本側ニ通達セラレ解決ノ途ヲ發見スルコトニ努メ度先頃與謝野代理力植民省當局ト會談ノ際蘭國側ニテハ假リニ日本商品ニ對シ何等カノ措置ヲ採ルコトアリトスルモ豫メ日本側ト相談スルコト無ク抜打ノ態度ニ出ツルカ如キコト無カルヘキ由ノ確言ヲ得タル趣ナルカ(往信第一一七號參照)是非トモ其ノ方針ヲ維持セラレンコト

第三五號  
往電第三〇號ニ關シ

廿六日非常時輸入制限令 Crisisvoer ordonantie 案國民參議會ニ提出セラレタリ内容ハ商品別ニ一定量又ハ一定金額以上ノ輸入禁止ヲ政府令ヲ以テ行フ權限ヲ政府ニ與フルモノニシテ政府令ノ施行期日十ヶ月農工商務長官ハ積出地ノ證明ニ關スル細則ヲ制定更ニ政府ノ説明書ハ目的カ蘭印産業全体ノ保護ニ在リ和蘭ト異ナリ蘭印ハ任意ノ割當制度ヲ執レハ足ル輸入業者ハ安價ニ供給スル國ヨリ買フ自由ヲ有スヘシ諸通商條約ニハ本件實行ヲ妨クル條項無シ尙輸入港ヲ指定シ「コントロール」ヲ容易ナラシムル事可能ト述ヘ居ル旨傳ヘラル參議會書記長ノ談ニ依レハ近日中ニ討議ヲ開始シ通過セハ直ニ實施ノ筈ナリト右不取敢

蘭、「スラバヤ」、「メダン」へ略送セリ

449 昭和8年8月7日 在オランダ齋藤(博)公使より  
内田外務大臣宛(電報)

ヲ希望スト述ヘタル處

「グ」ハ率直ニ申セハ蘭印ノ市場ハ近時日本ノ商品ニ攪亂セラルルヲ恐レ居レリ然レ共政府トシテ之ニ對シ重大ナル對策ヲ講スルニ當リテハ必ス豫メ日本側ト打合スヘク左スレハ合理的解決ニ到達シ得ルコトト信シ居ル次第ナリ決シテ抜打ハ致ササルニ付其ノ點ハ御安心アリタシト答ヘタリ

二、本使ハ仲裁裁判條約批准討議ハ凡ソ何時頃トナル見込ナリヤ(往信第一一五號參照)ト尋ネタルニ對シ「グ」ハ議會ハ九月開會セラルヘキモ豫算其ノ他日程輻輳シ居ルニ付右討議ハ餘程遅ルルコトトナリ或ハ今年中ニハ難カシキヤモ知レス尤モ本件ハ既ニ政府ノ手ヲ離レ全然議會ノ掌中ニアルヲ以テ確言ハ致シ兼ヌル處ナリト答ヘタリ又本使ヨリ右條約批准前ヨリ調停委員ノ選任ヲ考慮スル御約束ニシテ目下(脱)側ニテモ折角考査中ノコトト存スル次第(ナル)モ貴方ニテハ何カ腹案ヲ立テラレタリヤト質問シタルニ「グ」ハ實ハ本件ハ此ノ種事務ニ通曉セル在英和蘭公使ト相談中ナルニ付其ノ中腹案ヲ回示シ得ルニ至ルヘシト答ヘタリ

バタヴィア 7月26日後発  
本省 7月26日後着

450 昭和8年8月9日 在オランダ齋藤公使より  
内田外務大臣宛(電報)

蘭印における綿布輸入割当問題につき日蘭当業者間の協議を行いたいとのオランダ植民省非公式提案について

ハーグ 8月9日後発  
本省 8月10日前着

第八九號  
往電第八八號ニ關聯シ

(一)九日求ニ應シ往訪シタル與謝野ニ對シ植民省産業部長ハ「コライン」植相ハ「ツエント」綿業救済ノ爲蘭印ニ於テ綿布輸入割當制度ヲ實施スルヲ餘儀無キモノト認メ蘭印政府ニ對シ如何ナル方法ヲ適當ト爲スヤ問合ノ電報ヲ發シタルカ一方強制的割當制度ハ「ユ」氏ノ好マサル處ニシテ貴館、蘭當業者間ニ何等カノ協定成立セハ之ヲ基礎トシ割當ヲ行ヒ度意嚮ナル處近ク日英當業者協議會開催ノ趣仄聞セルニ依リ其ノ機會ニ日蘭當業者協議ヲ行ヒ得レハ好都合ナリトノ意見ニテ自分ニ對シ貴館ヲ通シ當業者會議ヲ開催スル様依頼センコトヲ命シタリ」ト語り且右開催可能ナル

ニ於テハ蘭(印)政府ニ對シ右協議會ノ結果判明スル迄何等措置ヲ執ラサル様電報スル積リナリト附言セル趣ナリ  
(二)蘭國側ニ於テ蘭印ニ於ケル綿布割當制度實施ノ決意ヲ有スル以上當業者間ノ協議ニ依リ有利ナル協定ニ達スヘク努力スルコト最モ適當ナルヘキヤニ認メラルル處右申出ニ對スル回答振ニ付至急御回訓相成度シ  
(三)本件蘭國側提議ハ外務省ヲ經由セス内密ニ我方ノ意嚮ヲ求メタルモノナルニ付新聞等ニ對シテハ和蘭政府ノ提議ナルコトヲ明カニセラレサル様致度シ  
(四)右會談ニ際シ同部長ハ與謝野ニ對シ目下倫敦ニ於テ開催中ノ英蘭當業者間ノ協議ニ於テハ將來蘭印ニ於テ輸入制限實施ノ場合英國側ハ既ニ喪失セル市場ヲ多少回復スルノ利益アルヘク從テ蘭國側ハ之カ代償トシテ他ニ何等カ蘭國綿業者ニ利益ヲ與フルコトヲ考慮スル様英國側ニ要求シツツアリト内話セル趣ナリ  
英、「バタビア」ニ轉電シ、「スラバヤ」「メダン」ニ轉電セシム

451 昭和8年8月12日 在バタヴィア小谷總領事代理より  
内田外務大臣宛(電報)

日蘭綿業當業者協議に関するオランダ当局非公式提案につき同協議はジャワにて行うべき  
旨意見具申

バタヴィア 8月12日後発  
本省 8月12日後着

第四〇號

在和蘭公使發閣下宛電報第八九號ニ關シ

同公使發閣下宛電報第七九號ニ依レハ「コライン」ハ「トウエント」保護ノ意嚮ナル趣ナリシニ付本官ニ於テモ當地官民側ノ眞意探查ニ努メタルカ往電第一九號ノ通り彼等ハ「ト」保護ヲ問題ト爲シ居ラサリシ次第ナリ然ルニ「コライン」ハ本邦カ日英協議ニ應シタル機會ヲ利用スルト共ニ豫テ嚮アリシ英蘭協議ノ見込付キタルヲ以テ愈「ト」保護斷行ニ出テントスルモノト察セラルル故ニ或程度ノ壓力ヲ加ヘテモ當領政府ヲシテ之ニ應セシムヘク其ノ場合本邦ニ於テモ右提議ニ應スルトセハ現在ノ日英關係ニ倣ハス前顯ノ次第並ニ左記ノ諸點ニ鑑ミ日蘭當業者代表ヲ瓜哇<sup>(爪哇)</sup>ニ派遣

スルコトトシ我方ノ立場ヲ有利ニスルコト最モ肝要ナリト存ス

一、假ニ和蘭ニ於テ協議スル時ハ蘭印消費者ノ請ハ無視セラレ英蘭共同戦線ニ直面スルニ至リ先方ニ有利ナル協定ニ導カルルコト明カナリ

二、蘭印ニ於ケル本邦綿製品取扱商社ハ(蘭商)高價ナル歐洲品ノ賣込殆ト不可能ナル實情ヲ熟知スルカ故ニ之ヲ利用スルコト有利ナリ

三、和蘭ノ申出カ幸外交機關ヲ經由セサルモノナルヲ以テ單ニ植民省ノ口切りニ依リ日蘭當業者ノ私的協定トシテ終始セシムヘク從テ格別和蘭ヲ協議地トシテ本國政府ノ監視ヲ受ケシメス必要ノ場合蘭印政府ノ斡旋ニ依ラシムルコトトスルコト有利ナリ

四、栽培業關係者ハ和蘭ニ於ケル資本家ヨリモ一層熱心ニ原價高ヲ齎ス虞アル總テノ原因ヲ排除セントシ居ル實情ナルニ付之等現場擔當者ノ「インフルエンス」ヲ利用シ得ヘシ

右ハ不取敢協議地ニ關スル卑見ナルカ尙又本邦カ今回ノ提議ニ應スルト否トニ拘ラス我綿業會長外國語ニ堪能ナル重

役級ノ人物カ綿業専門家同伴<sup>(爪)</sup>瓜哇へ來リ各方面トノ聯絡ヲ執ルト共ニ消費市場ノ實情ヲ研究シ置クコト絶對必要ナリト存ス

右當地滞在中ノ姉齒領事ト協議ノ上申進ス

蘭へ轉電シ「スラバヤ」、「メダン」ニ暗送セリ

452 昭和8年8月27日 在バタヴィア越田(佐一郎)総領事より  
内田外務大臣宛(電報)

蘭印当業者保護のための非常時諸法令発布に際しては事前に内示を得たき旨蘭印総督へ申入れについて

バタヴィア 8月27日後発  
本省 8月27日後着

第五一號

二十五日總督ヲ訪問シ着任挨拶ノ後通商航海等ヲ梗塞スル非常時施設ノ實施ハ本邦ニ多大ノ影響ヲ及ホスノ虞アルニ付成ルヘク法令ノ制定前ニ内容ヲ示シ又當業者間ニ協定付キ得ルモノニ付テハ必要ナル懇談ヲ爲サシメ我カ國民ヲ刺戟スルカ如キ不意打トナラサル様配慮ヲ得タキ旨ヲ申入レ

453 昭和8年8月27日 在バタヴィア越田総領事より  
内田外務大臣宛(電報)

蘭印非常時輸入制限令中注意すべき点について

バタヴィア 8月27日後発  
本省 8月27日後着

第五四號

往電第三五號第三六號及第三七號ニ關シ  
分科委員會報告ニ對スル政府回答中注意スヘキ點左ノ通り  
輸入制限令ハ本國ノ利益ノ爲割當ヲ爲ス可能性ヲ包含ス  
本令ハ和蘭ノ輸入制限法ノ如ク割當計算ノ基礎トナルヘキ  
特定ノ年度ニ拘束セラレサルカ故ニ前者ヨリモ活用ノ余地  
多シ

外國カ當領内ニ工場ヲ設置シ以テ割當制度ノ效果ヲ減殺セントスルカ如キ計畫ニ對シテハ條約ニ抵觸スルコト無ク之ヲ阻止スル手段ニ付研究中ナリ

「スラバヤ」ニ轉電シ蘭、「メダン」へ暗送セリ

454 昭和8年8月29日 内田外務大臣より  
在バタヴィア越田総領事宛(電報)

タル處彼ハ日本産業ノ異常ナル進歩殊ニ低廉ナル貨物ノ提供ニ付テハ敬意ヲ表スルモノナルカ腹藏ナク云へハ日本品ノ當領内進出ノ結果第三國ノ商品ヲ驅逐スルコトニ付何等ノ痛痒ヲ感セサルモ領内ニ於ケル僅少幼稚ナル産業力爲ニ破滅ニ至ルコトハ苦痛トスル處ナルニ付此ノ點ハ日本側ノ御考慮ヲ求メ度トシテ「セメント」、「麥酒」、「サロン」ノ例ヲ擧ケ又非常時法令發布前ノ内示ハ本國政府ト協議ノ關係上困難ノ場合モアリト答ヘタリ次テ蘭印實業家本邦訪問ニ關シ我カ實業家等ハ當地實業家代表者ノ來訪ヲ歡迎スヘク彼我ノ交驩ニ依リ互ニ理解シ得ルノ利益モアルヘク十月頃本邦ニ著スルコトセハ好都合ナルヘシト述ヘタルニ總督ハ不況ノ爲旅費捻出困難ノ立場ニ在リト云ヘルニ付比較的距離ナレハ餘リ多額ヲ要セサルヘシト返シタルニ目下何レモ不況對策ノ爲多忙ナレハ外遊ハ容易ナラサルヘシトノ意ヲ洩セリ(曩ニ總務長官ニ面會ノ節同官ノ答モ同意味ナリシ)

蘭、「スラバヤ」、「メダン」ニ暗送セリ

オランダ政府の蘭印での綿布輸入割当制度実施方に対する蘭印政府の意向査報方訓令

本省 8月29日後5時30分発

第三九號

貴電第四〇号ニ関シ

近年我對蘭印輸出漸増シ為之和蘭本國ノ輸出ヲ阻害スルモノナリトシテ蘭本國品特惠関稅問題等拾頭シ從來屢々之ガ實現ノ嚮アリシモ今日迄何等邦品ニ影響アルガ如キ措置ヲ執ルコトナカリシハ和蘭及蘭印政府ノ貿易自由及低物價ノ政策ニ職由スル所尠カラズト思考セララルル處在和蘭公使發本大臣宛電報第八九号ノ通り和蘭政府モ「トウエンテ」保護ノ為蘭印ニ於テ綿織物ノ輸入割当制度ヲ實施セントシテ日蘭當業者協議ヲ懲遯シ居ルガ既ニ御承知ノ通我輸出綿布ハ印度ニ於テ非常ナル打撃ヲ受ケ今又蘭印ニ於テ輸入ノ制限(仮令「サロン」丈ケニ限定スルモ)ヲ受クルコト、ナラバ我對外貿易上由々敷次第二ニ我方トシテモ和蘭政府ノ提案ニ對シテハ目下慎重考慮中ナルガ過般蘭印政府ガ「セメント」輸入制限ヲ断行セル事實アリトハ云ヘ之トハ余程趣ヲ異ニセル綿織物ニ對シ果シテ蘭印政府ガ從來ノ貿易政

策ヲ改メ本国政府ノ政策ニ追隨シ本件輸入制限ノ實施ヲ受諾スル程事態進展シ居ルモノナリヤ和蘭側申出ニ対スル我方態度決定ニ資シタキニ付右真相御取調回電アリタシ和蘭へ轉電シ「スラバヤ」「メダン」へ暗送アリタシ

455 昭和8年9月11日 在バタヴィア越田総領事より  
内田外務大臣宛(電報)

オランダ本国より庄迫あれば綿布輸入割当制度實施を受諾せざるを得ないとの蘭印政府当局見解について

バタヴィア 9月11日後発  
本省 9月11日後着

第七一號  
貴電第四二號ニ關シ

一、蘭印官民有力者ハ本國工業ノ保護ハ大局ヨリ見テ望マシカラストナシ來リタル所ナルニ付此ノ上ハ蘭印政府ノ具體的意嚮ヲ聽ク外ナシト認メ十日ノ日曜ニ小谷副領事帶同「バイテンゾルフ」ニ總務長官ヲ往訪日本政府ハ殖民省ノ非公式提案ニ關シ態度決定ノ爲慎重考慮中ナルカ消

布ノ代用ヲ旺ナラシムル故ニ效果少キノミナラス諸方面ニ不愉快ナル感情ヲ誘發スル虞アルヲ以テ個人的ニハ不贊成ナリト漏ラセリ

五、當地蘭字新聞ハ一般ニ「ト」保護ニ反對ナリ

六、參議會土人議員ノ多數カ物價高ヨリ來ル生活脅威ヲ理由トシテ輸入制限令ニ反對投票ヲ爲シタルコトヨリ察シ土人側カ「ト」ニ反對ナルハ明瞭ト思考セラル

案スルニ當領政府ハ本國ノ壓迫アル場合ニハ「ブロック」經濟及經濟國家主義ニ追隨スルノ已ムナキコトヲ表面ノ理由トシテ割當ヲ行フモノト察セラルル故ニ我方トシテハ日蘭會商ニ應セス「キ」割當制ノ不評判ト不成功ヲ靜觀スルモ一法カトモ思考セラルルモ斯クテハ益々英蘭間ノ提携ヲ密接ナラシメ且「キ」ノミナラス其他ノ商品ニ關シ民間協議ノ方法ニ依ラスシテ抜打的ニ割當ヲ實施セシムルニ至ル虞アリ之ニ反シ應諾スル場合ニハ

(イ)比率ニ關シテハ兎ニ角我方ニ有利ナル要求ヲ爲シ得ヘシ

(ロ)交換條件トシテ「キ」以外綿布ノ割當ヲ行ハシメサルコトトスレハ代用綿布ノ輸出ハ激増スル可能性アリ

費者ノ利益ニ非サル「キャンブリック」其他ノ割當制度ヲ蘭印政府ニ於テ果シテ實行スルノ意思ノ有無ヲ質問スルト同時ニ書面ヲ手交セル處「キャンブリック」問題ハ「コライン」自身取扱ヒ居レルモノナルカ近日中總督及「ウエレンスタイン」トモ協議ノ上回答スヘシト語リタ

二、次ニ總督顧問Kat Angelino (「リットン」)委員團ト共ニ訪日セル東洋通ナリ)ヲ往訪懇談セル處和蘭カ蘭印ノ長期公債ヲ引受クルノミナラス最近ハ一億數千萬ニ上ル歳入不足迄モ補填シ吳レ居ル事情ニ鑑ミ代償トシテ「トエンテ」ノ保護ヲ要求スルハ無理カラヌコトニシテ當領モ之ニ從フ外ナカルヘシト答ヘ尙最近ノ國際貿易ノ情勢ニ於テハ兩國間ノ相互相殺ヲ行フコト困難トナレルニ付各國ハ相手國トノ貿易均衡ヲ計ルノ外ナク從テ入超及金貨流出ヲ防止スル爲ニハ凡ユル不便ヲ忍ハサルヘカラスト語レリ

三、「ウ」ハ過日綿布ニ付テハ「シムラ」會商ノ結果ヲ待ツ必要アル旨語レリ

四、瓜哇銀行總裁ハ「キャンブリック」ヲ制限スレハ下級綿

(ハ)土人側及一部蘭人ノ不平ハ同シク存續スヘク之ヲ利用スルコトモ可能ナルヘシ從テ本件ハ大局ヨリ見テ應諾スル方得策ト思考ス

右不取敢

蘭、「スラバヤ」、「メダン」へ暗送セリ

456 昭和8年9月16日 在バタヴィア越田総領事より  
広田外務大臣宛(電報)

蘭印への我が方セメント輸出に関する当業者間協定成立と蘭印政府への本件協定の承認・保護方要請について

バタヴィア 9月16日後発  
本省 9月16日後着

第八一號

往電第七三號ノ(一)ニ關シ

一、輸入業者トノ調印ハ十五日終了セリ「パダン」トノ調印ハ十八日完了ノ旨

二、十六日山中及小谷「ブルックフェルト」ヲ往訪シ正式ニ協定書類ヲ提出スルト共ニ政府ノ承認及保護方(政府令

ノ發布)ヲ要請セル處左ノ通告ヘタリ

(イ) 新政府令ヲ六ヶ月有効ノモノトスルコト並ニ過去三ヶ月ノ実績ニ徴シ九月二十八日以後ノ一ヶ年ニ對スル需要見積ヲ幾分増加スルコトトスヘシ

(ロ) 右政府令ハ印度評議會ニ諮問ノ上二十七日迄(多分二十五日二十六日ナル可シ)ノ豫定ナリ

(ハ) 右政府令ハ參議會ノ協贊ヲ要セサルモ六ヶ月毎ニ更新スヘク需要見積ノ變更ハ其際考慮セラルヘシ

三、右會見後「ブ」ヨリ電話ヲ以テ政府ハ日本側カ協定調印ヲ機トシテ價格ノ引上ヲ行フ意向ナル旨ノ電報ヲ入手セル處若シ不當ノ引上ヲ見ル場合ニハ政府ハ他ノ手段ヲ考慮スル必要ニ迫ラルルヤモ知レサルニ付注意アリタキ旨申越セリ

本件ハ右ノ通大體我方ニトリ有利ニ轉回セル次第ナルカ(三)ニ付テハ特ニ協會ニ對シ御警告相成度又本件交渉ノ成行等ニ付テハ政府令ノ公布ヲ見ル迄新聞等ニ余リ書立テシメサル様御配慮ヲ得タシ

「スラバヤ」ヘ轉電セリ  
「メダン」ヘ暗送セリ

結局本件ニ關シテハ本國ノ政策ニ服從ヲ餘儀ナクセララルモノニアラスヤト思ハル

二、要スルニ本件會商ニ應セサルトキハ英蘭間ニ於テ協定シ割當制ヲ實施スルヤモ知レス然ルニ日本力會商ニ應スヘク何等カノ申出ヲ爲シ置カハ日本ノ意向ヲ全然無視シテ抜打的ニ割當制ヲ行フコトヲ幾分遠慮セサルヲ得サルヘシ從テ我第一案トシテ「キ」以外ノ織物ニ付テハ將來トモ制限セサルコト並會商ハ消費地タル蘭印ニ於テ行フ旨ノ二條件ヲ附シテ應スルコト然ルヘシト思考ス  
蘭、「スラバヤ」、「メダン」ヘ暗送セリ

(別電)

バタヴィア 9月18日後発  
本省 9月18日後着

第八二號

十四日發行瓜哇「ポート」ハ「トエンタ」ハ負債ノ爲金融業者ニ左右セラレ後者(特ニ「アムステルダム」銀行ノ Gelderman 一派)ハ「コライン」ヲ動カシ「コ」ハ蘭印政府ニ迫リ居ルヲ以テ「キャンブリック」ノ割當ハ避ケ難

457 昭和8年9月18日

在バタヴィア越田総領事より  
広田外務大臣宛(電報)

条件を付した上で日蘭綿業当業者会商に応ずべき旨意見具申

別電

九月十八日発在バタヴィア越田総領事より  
田外務大臣宛第八二號

綿布輸入割当制度に対する蘭印民衆意見について

バタヴィア 9月18日後発  
本省 9月18日後着

第八三號

往電第七一號ニ關シ

二十四日附公文ヲ以テ總督ハ海牙ニ於テ開始セラレタル本件交渉ハ同地ニ於テ續行セラルルコト然ルヘシト思考スル旨同答アリタリ右ハ當方照會ノ要點タル蘭印政府ノ意向ニ付表示スルコトヲ特ニ避ケタルノ感アリ多分「コライン」ト電報協議ノ上爲サレタルモノト察セラレ蘭印當業者トシテハ既報ノ如キ意向ヲ持チ又民衆側ニ於テモ大體別電第八二號ノ如キ意見ヲ有スルニ拘ラス蘭印政府ハ

キヤモ知レサル處土人消費者ノ負擔ニ於テ「ト」労働者ヲ保護スルハ絶対反對ノ旨ヲ論シ居レリ  
蘭、「スラバヤ」、「メダン」ヘ暗送セリ

458 昭和8年9月19日

在オランダ齋藤公使より  
広田外務大臣宛(電報)

首相は蘭印經濟關係諸問題を自ら主管している關係上綿業当業者会商をオランダ本国で行いたいとしている旨外務大臣談話について

ハーグ 9月19日後発  
本省 9月20日前着

第九九號

往電第九八號ニ關シ

外相ト會談ノ際外相ハ蘭印經濟ニ關係アル問題ハ「コライン」首相(植相兼任)自ラ一切ヲ應答シ居リ先頃日蘭綿業家協議ニ關スル植民省側協議モ當初自分ニ於テ承知シ居ラサリシ次第ナルカ「コ」ハ日英協議ノ爲來英中ノ日本當業者カ來蘭シ和蘭當業者ト懇談ヲ爲シ得レハ好都合トノ意向ニテ右ハ當業者外ノ私的協議ヲ行ハシメントスル趣旨ナル

カ「コ」ニ於テハ自ら親シク本問題ヲ取扱ヒ居ル關係上右會合ヲ蘭本國ニ於テ開ク事最モ適當ト思考シ居レリト語レリ

本使ハ之ニ對シ目下滯英中ノ日本綿業代表ハ日英間ノ協議ノミヲ豫想シテ出發シタルモノナレハ御希望ノ如キ日蘭間ノ意見交換カ果シテ右代表ニ依リテ效果的ニ行ハレ得ヘキヤ疑問ト考フルモ御趣旨ハ政府ニ傳達シ其ノ考慮ヲ求ム可シト答ヘタリ

就テハ本件ニ關シテハ往電第八九號稟申ニ基キ目下御考慮中ノ事ト存スルモ此ノ際先方ニ對スル回答振リニ付何分ノ御回訓相成様致度シ

「バタバヤ」ヘ轉電セリ  
「バタバヤ」ヨリ「スーラバヤ」「メダン」ヘ轉報アリ度シ

459 昭和8年9月22日

在バタヴィア越田総領事より  
広田外務大臣宛(電報)

蘭印での綿布輸入割当問題に関しては「サロン」と「キャンブリック」とを区別して対処

ニ反對サヘ有ルハ拙電ニテ御承知ノ通ナリ

(三)綿織物ニ關シテハ「サロン」ト「キャンブリック」トヲ區別シテ考察スルヲ要ス前者ハ蘭印産業ノ保護ヲ目的トシ蘭印政府ノ關心大ニシテ早晚政府令制定有ルヘシト期待セラル從テ本品ニ付テハ別ニ對策研究ヲ要スヘシ(往電第四九號)又後者ハ和蘭本國ノ産業保護ヲ目的トシ本國カ主トシテ焦慮シ居リ蘭印ヲ壓迫シテモ措置ヲ執ラントスル形勢ナルニ依リ若シ會商ニ日本カ應セサルヲ理由トシ英蘭提携シ割當決定スルノ場合ヲ慮リ一應往電第八三號(一)ノ條件ヲ含ム對策(之ハ先方ニ於テ受諾困難カト思ハル)ヲ出シ應待シツツ場合ニ依リテハ遷延策ヲ講シ萬一抜打的ノ場合ニ嚴重抗議ノ行懸ヲ作り置ク事得策ト思考スルニ付速ニ態度決定ヲ可ト信ス  
蘭ヘ轉電シ「スラバヤ」「メダン」ヘ暗送セリ

460 昭和8年9月23日

在オランダ齋藤公使より  
広田外務大臣宛(電報)

オランダ側の日蘭綿業当業者会商開催提議の背景および会商開催地問題などに関する所見

すべき旨意見具申

バタヴィア 9月22日後発  
本省 9月22日後着

第八八號

貴電第四七號ニ關シ

(一)總務長官ヘノ往信中ニハ日本政府ハ植民省ノ非公式申出ニ關シ其ノ態度決定ニ先立ち云々ト記述シ又回答ニハ我方ノ右文句ヲ其ノ儘繰返シタル後「海牙ニ於テ開始云々」ナル文句ヲ用ヒタルモノニシテ且此ノ非公式申出ニ付テハ曩ニ同長官ニ二回ニ亘リ話シタル事有ルニ付別ニ誤解無カルヘシ又次ノ理由ニ依リ之カ爲特ニ蘭印ヲ驅ツテ本件ヲ促進セシムルノ虞無カルヘキモ最近ノ機會ニ於テ更ニ念ヲ押シ置クヘシ

(二)貴電後段ニ關シ關係有力者ノ所見等ハ大体之ヲ徴シ且電報濟ニテ此ノ上確カノ處ヲ知ルニハ蘭印政府ノ意嚮ヲ聽クノ外無シト認メ照會シタルモノニシテ此ノ點ニ關シ同政府カ「コンミット」セサルハ「コライン」自ラ本件ヲ主管(蘭公使發閣下宛電報第九九號及拙信第七一號ノ後段)シ居ルニ依ルヘク蘭印當局ハ氣乘リシ居ラス又民間

について

ハーグ 9月23日後発  
本省 9月24日前着

第一〇二號

「バタヴィア」發閣下宛電報第八三號(一)及第八八號(三)ニ關シ

(一)當業者私的協議ノ開始ノ條件トシテ和蘭政府ヲシテ「キャンブリック」以外ノ綿織物ノ制限ヲ將來トモ爲ササルヲ約セシメントスルハ現ニ在「バタヴィア」總領事ノ認メ居ル如ク事實上至難ナルノミナラス却テ右私的協議ニ公的性質ヲ賦與シ蝮蛇ノ惧アリト思考セラル抑々先方申出テノ心底ハ日蘭當業者ヲシテ意見ヲ交換セシムル事ハ假リニ兩者ノ間ニ何等カノ妥協ヲ見タル場合ハ割當ノ實施ヲ蘭印政府ニ強制スル事無クシテ問題ヲ解決シ得ルノ利益アリ何等カノ妥協成立セサル場合モ日本當業者ノ意嚮ヲ徴シ置ク事將來割當ヲ行フ場合ニ有益ナルノミナラス日本側ニ對スル義理ヲモ果ス事トナルヲ考慮シタルニ在リト察セラル即チ先方トシテハ本協議會ヲ兩國政府ヲ拘束セサル當業者間ノ私的協議トシテ終始セシメントス

ル意嚮ナリト認めラルル從テ右私的協議開始ノ條件トシテ先方政府ノ受諾セサルヘキヲ承知シ乍ラ將來ヲ拘束スル如キ約束ヲ爲ス事ヲ申入ルルハ遷延策トシテモ當ヲ得タルモノニ非スト存ス

(二)會合地ノ問題ニ關シ諸般ノ事情ヨリ瓜哇<sup>(爪哇)</sup>ヲ適當トスルモノノ如ク既ニ右方針ヲ以テ御考量中ノ事ト存スルモ目下在英中ノ本邦綿業代表ノ少クトモ一部ハ英國ニ於ケル交渉終了後訪蘭ノ意ヲ有スル趣ナルニ依リ若シ此ノ機會ニ來蘭シ和蘭當業者ト意見交換ヲ爲スヲ得ハ和蘭側ハ素ヨリ之ヲ希望シ居ルモノナルニ依リ大イニ之ヲ「アプリシエート」スヘク右會合ニ先立ち和蘭政府側ニ對シ萬一右會合ニ於テ何等ノ妥協ヲ見サル時ハ將來瓜哇<sup>(爪哇)</sup>ニ於テ更ニ會合協議ヲ行フ事ト爲ス様豫メ諒解ヲ求メ置カハ(先方カ果シテ受諾スルヤ否ヤ不明ナルモ不可能ニ非サルヘシ)海牙ニ於ケル當業者協議ノ失敗ヲ以テ直ニ先方カ割當措置ヲ執ルノ惧ナカルヘキニ付若シ右可能ナルニ於テハ本件對策トシテ時宜ニ適スト認めラルル右御參考迄  
「バタヴィア」ニ轉電セリ

バタヴィア 本省 9月28日後着

第九六號  
往電第八一號ニ關シ  
二十六日附ヲ以テ政府令發布セラレタリ二十七日ヨリ明年三月二十七日迄有効ニシテ右期間ノ輸入許可量三五、〇六二、五〇〇噸(二〇六、二五〇樽)即チ一ヶ年ニ直セハ需要見積百十六萬樽(「バダン」六十八萬七千五百、日本四十一萬二千五百)ニシテ從來ニ比シ十一萬二千五百樽丈ケ我方ニ取り有利トナル次第ナリ  
蘭、「スラバヤ」、「メダン」へ暗送セリ

463 昭和8年10月13日 広田外務大臣より  
在バタヴィア越田總領事宛(電報)

日本蘭印間海運問題に関する当業者會議を神戸にて開催したき旨蘭印当局へ申入れ方訓令  
付記 十二月十五日付、作成局課不明

「本邦蘭領印度間航路ニ於ケル邦船蘭船積荷割當問題ニ關スル件」

461 昭和8年9月28日 在バタヴィア越田總領事より  
広田外務大臣宛(電報)  
日蘭綿業當業者會商開催に無条件で応じても  
差支えなき旨上申

バタヴィア 9月28日後着  
本省 9月28日後着

第九四號  
在蘭公使發閣下宛電報第一〇四號ニ關シ  
在英中ノ綿業代表ノ一部カ歸途訪蘭シ豫備的ニ非公式ノ會商ヲ行フコトヲ得ハ先方ノ希望ニモ副フト同時ニ其意嚮ヲ知ル上ニ於テ有益ト認めラルル往電第八三號ノ二ノ條件ハ當業者ノ私案トシテ會商ノ席上申出テ瀕踏ヲ爲スモ一法ナラシ尤モ右會商ハ政府ヲ拘束セサル私的性質ノモノナルニ依リ無條件ニテ應スルモ差支ナカルヘシト思考セラル

462 昭和8年9月28日 在バタヴィア越田總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

セメント輸入制限に関する蘭印總督府令發布  
について

本省 10月13日後8時30分発

第五六號  
邦船及蘭船ノ積荷比率ニ關スル貴電第一〇三號等累次御電報ノ次第ニ關シテハ通信當局トモ協議ノ上關係當業者ノ態度決定方徳源シ置キタル處今般漸ク大阪商船、南洋郵船及石原汽船ノ三社間ニ丁社ニ對スル積荷比率ニ付キ意見ノ一致ヲ見タリ即チ農工商務長官ノ三割三分提言ニ對シ本邦三社側ニ於テハ兩國船舶積荷ノ現勢等ニ鑑ミ二割七分ヲ主張シ居リ之ヲ基礎トシテ丁社ト直接交渉ヲ開ク用意アリ且ツ右ノ四社交渉ハ各社本店又ハ支店所在地ノ關係ヲ考慮シ神戸ニ於テ之ヲ行ヒタキ希望ナリ

就テハ右ノ次第農工商務長官ニ内報セラレ本件解決ハ之ヲ當業者間ノ直接交渉ニ委ヌルコト最妥當ナルベキニ付右神戸交渉ノ開催斡旋方御申入レアリタシ尚本邦三社側ノ二割七分ノ主張ハ政府トシテ幾分之ヲ緩和セシメ得ル事情アルモ之ガ為メニハ神戸ヲ交渉地トスルコト絶對必要ナルニ付右貴官限りノ御含ミニテ可然御折衝相成リ結果回電アリタシ  
蘭ニ轉電シ「スラバヤ」「メダン」ニ暗送アリタシ

(付記)

本邦蘭領印度間航路ニ於ケル邦船蘭船積荷割  
當問題ニ關スル件

從來本邦蘭領印度間定期航路ヲ有スルハ本邦側ニ於テハ日本郵船會社、大阪商船會社及南洋郵船會社ノ三社和蘭側ニ於テハ爪哇支那日本汽船會社ノ一社合計四社ニシテ右ノ内本邦爪哇間定期航路ハ大阪商船會社、南洋郵船會社及爪哇支那日本汽船會社ノ三社ニシテ其ノ間ニ爪哇航路運賃同盟ヲ結ヒ居レリ

然ルニ昭和六年三月石原産業海運合資會社カ本邦、爪哇及新嘉坡間定期航路ヲ開キ之ニ割込ミ而モ石原ハ馬來半島ニ於ケル同社所有鑛山ヨリノ鐵鑛石運搬ニ使用セル片荷船腹ヲ爪哇往航ニ利用シ得ル關係上同盟運賃ニ比シ遙カニ低率運賃ヲ以テ貨物ノ吸收ニ努メタル爲同盟三社モ約四割強ノ運賃値下ヲ斷行シ之ニ對抗シ爾來一ケ年半ニ亘リ猛烈ナル競争ヲ生スルニ至リタルカ本省及遞信省ノ調停斡旋ニヨリ昭和七年九月ニ至リ前記同盟三社ト石原産業海運合資會社及之ニ日本郵船會社ヲ加ヘタル五社間ニ妥協成立シ新運賃協定ヲ締結シ本年一月ヨリ之ヲ實施スルコトナレリ

## 八 諸外国との通商問題

シ陳情ノ次第アリタルニ付在「バタヴィア」帝國總領事ヲシテ調査セシメタル處蘭印政府當局ニ於テハ輸入港ノ指定又ハ一部開港場ノ閉鎖等ヲナスヘキ意嚮ハ有セサルモ蘭印ニ輸入スル本邦品ノ幾割カヲ蘭國船ニ積載セシメ以テ爪哇支那汽船會社及K、P、Mノ救濟方ニ關シ慎重考究中ニシテ又爪哇支那汽船會社及蘭人輸入商側ニ於テモ蘭國側ニ有利ナル積荷割當ヲ主張シ策動中ナル趣ヲ以テ關係船會社間ニ於テ早キニ及ンテ積荷協定ヲ締結セシメ以テ蘭印政府當局ニ於ケル輸入港指定其他ノ非常對策ヲ未然ニ防止スル必要アル旨報告アリタリ仍テ遞信省及本邦關係船會社ト協議ノ結果和蘭側ト積荷協定ヲナスコトニ意見ノ一致ヲ見タリ尤モ蘭印側ハ大体三割三分ノ積荷ヲ要求セルモ右ハ兩國船積荷ノ現勢等ニ鑑ミ適當ナルヲ以テ本邦側ニ於テハ蘭船二割七分ヲ主張シ之ヲ基礎トシ且各船會社ノ本支店所在地ノ關係上神戸ヲ交渉地トスヘキ條件ヲ以テ右積荷協定ヲ行フコトトナリタルニ付更ニ在「バタヴィア」帝國總領事ヲシテ和蘭側ノ意嚮ヲ確カメシメタル處先方ニ於テモ我方提案ニ應諾ノ旨回答アリタリ

然ルニ和蘭側ト本件交渉ヲ開始スルニ先チ本邦船會社相互

前記競争ニヨリ最大ノ打撃ヲ受ケタルハ爪哇支那日本汽船會社ニシテ同社ハ經營費ノ點ニ於テ本邦船會社ニ對抗困難ナルニ加ヘ石原ノ進出ニヨリ貨物ノ吸收意ノ如クナラス從テ採算困難ノ爲遂ニ毎月二隻ノ配船ヲ一隻トナスニ至レリ尤モ其ノ後本邦品ノ對蘭領印度輸出増進ト五社間妥協成立ニヨリ配船ヲ從前通り二隻トナシタルモ然シ依然本邦船會社トノ積荷競争ハ免カレス之カ壓迫ニ苦シミ居タル處偶々客年五月南洋郵船會社カ其ノ爪哇航路ヲ「スマトラ」島「パダン」迄延長シ次テ本年五月更ニ同島「パレムバン」ヘモ寄港スルコトトナリタル結果從來蘭領印度沿岸航路ヲ獨占セルK、P、M汽船會社ハ爲ニ大ナル打撃ヲ受クルコトトナリ猛烈ナル反對運動ヲ起シ又本年九月蘭領印度政府ノ非常時輸入制限令ノ公布ヲ見其他自國産業ノ保護政策ヲ講スヘキ氣配ヲ看取シ爪哇支那日本汽船會社ハK、P、M及蘭人輸入業者等ト提携シ政府ニ對シ蘭國船保護ノ名ノ下ニ蘭領印度ニ輸入スル本邦品ノ邦船、蘭船間積荷割當制度採用方ヲ暗ニ策動シ蘭印政府モ之ニ動カサレ輸入港ノ指定乃至一部開港場ノ閉鎖等ノ對策ヲ考慮中ナルヤノ趣ヲ以テ關係船會社ヨリ遞信省ヲ經テ右真相取調並對策考究方ニ關

間ニ於ケル積荷割當ヲ協定スヘキ必要アル處本邦各船會社間ニ於ケル協議容易ニ纏マラサル爲未タ蘭船側トノ交渉開始ノ運ニ至ラサルモ本件ハ獨リ我海運業ノミナラス延イテハ我商權伸長上ニモ重大ナル影響ヲ及ホスヘキ問題ナルニ鑑ミ本省ニ於テハ遞信省トモ協議ノ上可成速ニ内部ノ協議ヲ纏メタル上蘭船側トノ交渉開始方懸念シツツアルヲ以テ近ク右積荷割當協定ニ關シ交渉ヲ開始スルニ至ルヘシ

### 對蘭印輸出「セメント」ノ積荷割當問題ニ關スル件

尙右邦船蘭船間ニ於ケル一般の積荷割當問題ノ外對蘭印輸出本邦「セメント」ノ積荷割當問題アリ即昭和七年八月爪哇航路運賃同盟三社(大阪商船、南洋郵船及爪哇支那日本汽船)ト蘭領印度ニ於ケル主要本邦「セメント」輸入蘭商五社トノ間ニ本邦「セメント」ノ積荷割當ヲ協定シ前記同盟三船會社ノ毎月「セメント」輸送責任數量ヲ三萬六千樽トシ之ヲ右三社船ニ各一萬二千樽宛均分ニ積込ムヘキコトトシ若シ本邦ヨリノ「セメント」輸出高カ右責任數量以上ニ上ルトキハ之ヲ蘭船タル爪哇支那日本汽船會社ニ於テ引受クルコトトセリ次テ同盟三社對石原産業海運會社ノ妥協

成立後同年十一月に至り右「セメント」積荷協定ニ石原ヲ加へ且毎月「セメント」輸送數量ヲ四萬八千樽ニ増加シ之ヲ四社間ニ同様均分積込ヲナスコト但シ右數量超過分ハ爪哇支那日本汽船會社ニ於テ引受クルコトナレリ而シテ右協定ハ爾來三ヶ月毎ニ更新シ最後ニ本年五月更新ノ際本協定ノ存續期間ヲ本年九月三十日迄トシ爾後三ヶ月ノ豫告ヲ以テ船會社又ハ輸入商側ヨリ協定解除ノ通告ヲナス迄引續キ存續スルコトナリ今日ニ及ヘリ

然ルニ本年十月蘭印農工商務長官ハ「セメント」輸入商（日本商ヲ除ク）ニ對シ輸入「セメント」ノ五割以上ヲ爪哇支那日本汽船會社ノ船ニ積込方ヲ命セル趣入報アリタルニ付取調タル處右事實ナルコトヲ確カメタルカ「セメント」ノ積荷割當ニ關シテハ前述ノ如ク船會社及輸入商間ニ協定存在スル關係モアリ關係船會社ヲシテ交渉セシムルコトセルカ蘭商側ニ於テハ毎月輸送取極數量以上ノ輸入註文ヲ發シ以テ本邦船會社側ニ對シテハ協定ニ基ク均分數量ノ積込ヲナサシメ爪哇支那日本汽船會社ニ對シ相當數量ノ超過額ヲ積込マントスル意圖アルモノノ如シ

前顯一般積荷割當問題及右「セメント」積荷ノ五割ヲ蘭

談シ度シトノ談アリ約ニ依リ本十六日首相ヲ植民省ニ往訪セル處首相ハ綿布問題ニ關シ腹藏無ク御話シ度シトテ「フアン、ヘルデレン」氏（「バタビア」發大宛電報第三七號參照）列席ノ上

蘭印ニ於テ日本カ獅子ノ分前ヲ取ルハ地理的ニモ當然ノコトニシテ和蘭トシテハ蘭印ニトリ日本カ重要ナル國ナルコトニ敬意ヲ表シ常ニ日本トノ間ニハ圓滿ニ事ヲ解決スルノ方針ナリ去リ乍ラ日本カ蘭印ニ於テ重要ナル地位ヲ占メ居ルノ理由ニ依リ蘭本國ノ工業ヲ見殺ニ爲スハ亦不可能ナルコトト言フヘン自分ハ「ツエント」救濟ノ爲ニ日本トノ間ニ圓滿ナル協定ノ成立セシコトヲ衷心希望スルモノニシテ右ノ爲ニハ生地綿布ノ一二種ニ付テノミ當業者間ニ協定成立セハ足ルモノト考ヘ居リ又其ノ可能ナルコトヲ信シ居ル處幸ヒ目下倫敦ニ日本棉業代表者來リ居ルヲ以テ蘭國當業者トノ間ニ非公式且友好的ナル會合ヲ催シ圓滿ナル解決ヲ求ムルコトトシ度キ自分ノ希望ナリ萬一日本側ニ於テ「ツエント」ノ見殺ヲ已ムヲ得ストサルルニ於テハ和蘭トシテモ政府ノ權力ニ依リ「クオート」制度ヲ強制スルカ如キ好マシカラサル措置ヲ執ル必要ニ迫ラルルコトナリ面白カ

船積込方ニ關スル問題モ爪哇支那日本汽船會社及蘭人商社等ノ提携策動ニ基因スルモノナルヤニ思考セラルル節アルモ本件ハ問題ノ性質上當業者相互間ニ於ケル協定ニヨリ解決スヘキモノナリト思考シ其ノ交渉ニ委スルコトトセリ尤モ本件ハ我對蘭印貿易ノ増進上ニモ重大ノ關係アルニ顧ミ本省ハ遞信省ト連絡ノ上右交渉促進ニ關シ斡旋スルト共ニ其ノ成行ヲ注視シ必要ニ應シ蘭印當局ト交渉其他善後對策ヲ講スルコトトスヘシ

464 昭和8年10月16日

在オランダ齋藤公使より  
広田外務大臣宛（電報）

首相より滞英中の我が方綿業者來蘭による日

蘭綿業當業者會議開催方要請について

ハーグ 10月16日後発

本省 10月17日前着

第一一二號

往電第一〇二號ニ關シ

德川公來蘭ノ機會ニ首相外相等ヲ招キ宴會ヲ催シタル處席上「コライン」首相ヨリ本使ニ對シ綿布問題ニ關シ篤ト相

ラス生地綿布ノ一二種ノミノ問題ナレハ是非共目下滞英中ノ日本代表ノ來蘭ヲ促スコトニ御盡力アリ度シト述ヘタリ

<sup>(2)</sup>本使ハ右ノ如キ首相ノ懇談ニ對シ

日本側ニ於テハ目下當業者ト協議中ノ趣ニテ和蘭側ノ希望ニ付テハ篤ト考慮ヲ拂ヒ居ル次第ナルカ當業者トシテハ斯ル協定ヲ好マサルヘキハ勿論ナルヘク又英國ニ來リ居ル代表モ蘭印問題ニ關シテハ熟知セサルヘク來蘭スルモ協議ヲ行ヒ得ルヤ疑問ナリ又卒直ニ申サハ日本當業者側ニハ和蘭カ英國ト共同戦線ヲ張り日本品ヲ壓迫セントスルモノナリトノ風説ヲ信シ惡感情ヲ有スル者モアルヤニ傳ヘラルル事事實アリヤ御尋シ度シト述ヘタルニ首相ハ全ク斯ル事實無シ英蘭當業者ハ前後二回ノ協議會ヲ行ヒタルカ其ノ結果協定ニ達シ得タルハ英蘭本國間ノ綿製品ノ問題及南阿ニ關スルモノノミナリ右會合席上東洋ニ關スル問題モ議ニ上リタルコトアルハ事實ナルモ何等協定ニ達シタリト言フカ如キ事實無シト答ヘ更ニ本使ノ問ニ應シテ斯ル事實無キ旨ヲ日本ニ電報セラレ何等差支無シト述ヘ又本使ヨリ本件協議ノ問題ハ生地綿布ノミニ付テナルヤト問ヒタルニ他ノ商品ニ

付テハ到底實行シ得スト笑ヒタリ

尙「コライン」ハ「ヘルデレン」ハ本年末蘭印ニ歸ルヘキニ依リ夫レ迄ニ本問題ノ解決ヲ計リ度ク日英問題解決後ナトト言ハス日英ノ問題トハ切り離シ日本代表カ來蘭シ圓滿ナル協議ヲ行フコトニ御取計ヒ願タシト述ヘ居タリ就テハ目下當業者側ノ意見取纏メ方御盡力中ノコトト拜察スル處和蘭側ノ意嚮右ノ如クナルニ鑑ミ日本當業者カ來蘭シ蘭國側當業者ト懇談スルコトハ會合ノ結果協定ニ達シ得ルヤ否ヤハ別トスルモ極メテ望マシキ義ナリト存セラルルニ付出來得ル限り目下滯英中ノ日本代表ノ訪蘭實現スル様御取計相成度至急何分ノ態度御決定御回訓相成様致度シ英、「バタバヤ」ヘ轉電セリ  
「バタバヤ」ヨリ「スーラバヤ」、「メダン」ヘ轉報アリ度シ

465 昭和8年10月17日 在オランダ齋藤公使より  
広田外務大臣宛(電報)

日蘭綿業当業者会商は是非共オランダ本国で行いたいとの同国首相要望について

滯英中の我が方綿業者渡蘭方決定について

本省 11月4日後2時45分発

第七五號

貴電第一一三号ニ関シ

御来示ノ次第ヲ紡績聯合會ニ傳ヘ不取敢訪蘭方勸奨シタル處同會ニテハ滯英中ノ代表トモ電報打合せノ上大体双方當業者交歓及意見ノ交換ノ為メ同代表中二、三名ヲ貴地ヘ派遣スルコトニ決定セリ(本邦ヨリ送付スヘキ日蘭関係参考資料到着後渡蘭ノ筈)就テハ右兩者間ニ往復セル電報ハ倫敦ヨリ御取寄ノ上委曲右ニテ御了知相成リ先方ヘ可然應酬シ置カレタシ  
英、「バタバヤ」ヘ轉電シ「バタバヤ」ヨリ「スラバヤ」「メダン」ヘ轉報セシメラレタシ

467 昭和8年11月17日 広田外務大臣より  
在バタバヤ越田総領事宛(電報)

在本邦オランダ公使より蘭印において臨時的に晒綿布輸入割当制を実施しその間に日英蘭当業者協定を結ぶとの計画申越しについて

ハーグ 10月17日後発  
本省 10月18日前着

第一一三號  
往電第一一二號會談ノ際「コライン」首相ハ和蘭側ニテハ蘭印ニ於ケル「セメント」協定ノ成立ヲ非常ニ德トシ居リ綿布ニ關シテ「セメント」ト同様ニ協定ノ成立ヲ見ルコト望マシト考ヘ居ル旨ヲ語リタルニ依リ本使ヨリ綿布問題ニ關スル協議ヲ行フトセハ「セメント」同様蘭印ニ於テ行フコト必要ナルニ非サヤト述ヘタル處「コ」ハ協定ノ細目ニ關スル話合ハ勿論蘭印又ハ日本ニ於テ行フモ結構ナリ只日蘭當業者カ協調的ニ協定ヲ爲スト云フ原則ノミハ蘭本國工業家ノ問題ニモアリ是非共蘭本國ニ於テ會談セシムルコトトシ度シト語り居タリ右前電補足旁御參考迄  
英、「バタバヤ」ヘ轉電セリ  
(「バタバヤ」ヨリ轉報先脱?)

466 昭和8年11月4日 広田外務大臣より  
在オランダ齋藤公使宛(電報)

日蘭綿業当業者の交歓および意見交換のため

本省 11月17日後10時発

第六三號

十七日本邦駐在和蘭公使通商局長ヲ訪問シ蘭印ハ近ク晒綿布ノ輸入ニ付一九三二年ノ数字ヲ基礎トシテ十ヶ月間臨時輸入割當制度ヲ實施シ右期間中二日英蘭三国當業者間ノ協定ヲナサシムル計画ナル旨ヲ語リタルガ右計画ハ貴地ニ於テ如何ナル程度ニ進捗シ居ルモノナリヤ御取調ノ上貴見ト共ニ至急回電アリタシ  
蘭及英ニ轉電シ、スラバヤ、メダンヘ暗送アリタシ

468 昭和8年11月21日 在バタバヤ越田総領事より  
広田外務大臣宛(電報)

蘭印での晒綿布の輸入割当制度臨時実施計画などに関する蘭印政府への照会と同計画への我が方対策について

第一二六號  
貴電第六三號ニ關シ  
バタバヤ 11月21日後発  
本省 11月21日後着

(一) 經濟委員會書記長ニ問合セタル處總督始メ當領官憲ハ初耳ニテ意外ノ感ニ打タレタルモノノ如ク至急協議ノ上和蘭ニ照電スヘシトノコトナリ元來當領政府トシテハ本件實現ヲ希望セス若シ本國力強制的ニ押附クル場合ニハ割當ニ依リテ利益ヲ受クル國々(主トシテ英國ヲ指スモノト思考セラル)ニ對シ砂糖ノ買付又ハ其ノ他ノ方法ニ依ル代償ヲ要求スル意嚮ナルカ如シ

(二) 本件ニ對スル卑見左ノ通

イ、先方ノ申出ニ依リ我方カ當業者會商ニ應シタル次第ナレハ其ノ結果ヲ見ル迄本件差控ヘ方一應申入ルルコト  
ロ、先方若シ之ニ應セス割當ヲ斷行セントスル場合ニハ成ルヘク國別割當ヲ爲サス「セメント」ノ如ク一般割當トセシメ以テ我方ノ優越ナル現勢ヲ確保スルコト

ハ、若シ國別割當避ケ難キ場合ニハ一九三三年ノ數字ヲ基礎トスル様交渉スルコト望マシ(晒綿布蘭印總輸入額ニ對スル本邦ノ比率ハ一九三二年數量三十七金額三十五%一九三三年九月迄數量七十五金額七十二%)

ニ、品種ハ晒綿布全体トセス當初殖民省言明ノ通「キャンブリック」ニ限定スル様交渉ノコト

占メシカ爲ニ「ダンピング」ヲ行フカ如キコトヲ防止スルコト並會商カ何等結果ニ達スル迄ニハ相當時日ヲ要スヘク事態ハ日々ニ惡化スルノミナルニ依リ一先ツ事態ヲ固定セシムル爲假措置トシテ割當ヲ實施センコトヲ蘭印政府ニ「サジェスト」シ且右措置ノ眞意ニ付日本側ニ誤解ナキ様在本邦和蘭公使ヲシテ豫メ説明セシメタルモノナリト述ヘ尙割當適用ノ品種ニ關シテハ比較的高級品タル「キャンブリック」ハ蘭印ニ於テモ困難鮮カルヘシト考フル由ヲ語リ從テ日本ニ對シ何等對抗的態度ニ出テントスルモノニ非ス却テ「ダンピング」ニ依リ事態ヲ「フオーストール」セラレ有效的解決ニ困難ナル事態ノ誘起セラレンコトヲ恐ルルニ出ツル考案ニ外ナラズト陳辯ヲ重ネタリ

(2) 之ニ對シ本使ハ貴方ノ御事情ハアルヘキモ會商ヲ眼前ニ控ヘ斯ル御措置ヲ採ラレントスルハ日本側ノ了解シ難シトスル處ナルヘキカトモ思ハルルモ兎ニ角御話ノ點ハ早速政府ニ報告シ置クヘシト述ヘタルニ首相ハ自分ノ考ハ全ク會商ヲ圓滑ニシ有效的解決ニ導カントスルニ在リ決シテ他意アルニ非スト繰返ヘセリ

尙本使ハ會商ヲ日英蘭三國當業者間ニ行フコトハ從來全ク

ホ、當業者ノ協議ハ日蘭間ニ限ルコト有利ナルヘク英蘭間ハ別ニ行ハシムルヲ可トスヘシ  
蘭、「スーラバヤ」ニ轉電セリ  
「メダン」ニ暗送セリ

469 昭和8年11月28日

在オランダ齋藤公使より  
広田外務大臣宛(電報)

在本邦オランダ公使申越シの蘭印での晒綿布の臨時的輸入割當制度実施計画などに関する  
首相説明振りについて

ハーク 11月28日後発  
本省 11月29日前着

第一二七號

往電第一二六號ニ關シ

二十八日「コライン」首相ヲ應訪、蘭印ニ於ケル綿布割當實施問題ニ付抜打的措置ハ取ラレサルコトト了解シ居タルニ今回此ノ舉ニ出テラレントスルハ如何ト質シタルニ「コ」ハ打明ケテ申サハ本件ハ自分ヨリ出テタルモノニシテ當業者會商ニ依リ話合ヲ爲スニ先立チ右會商ニ有利ナル地位ヲ

話無カリシ次第ナリヤト尋ネタルニ首相ハ右ハ和蘭側ハ英國側トモ會商ヲ爲スコトアルヲ(脱)ニシテ日蘭間ノ問題ハ勿論兩國間ノミニテ解決セラルヘク三國鼎座協議スルカ如キ考ナシト答フ

尙首相ハ和蘭政府カ「トウエンテ」品ヲ蘭印ニ賣ラントスルニハ種種ノ困難アリ其ノ代償トシテ本國ニ於テ蘭印製産品輸入ヲ増進セシムルノ必要アリ目下砂糖「タピオカ」サゴ珈琲等ノ買上ニ付考慮中ナル旨ヲ語リ日本品ニ關シテモ日本側ニ於テ今日以上ニ蘭印側ヨリ購入スル物品アラハ日蘭間ノ話合ハ融通性アルモノナルヘキヤニ考ヘ居レリト語リ居タリ  
英及「バタヴィヤ」ヘ轉電セリ

470 昭和8年11月29日

広田外務大臣より  
在オランダ齋藤公使宛(電報)

蘭印での晒綿布の臨時的輸入割當制度実施の場合における我が方条件などにつき在本邦オランダ公使へ申入れについて

本省 11月29日後8時20分発

第八三號

貴電第一二六号ニ関シ

当方ニテモ一應確メ置ク要アリト考ヘ本二十九日通商局長ヲシテ本邦駐在和蘭公使ヲ往訪セシメ貴電冒頭相違ノ点ニ付問ヒ訊サシメタル處同公使モ本件ニ関シ実ハ本国政府ヨリ正式ニ訓令ヲ受ケタル次第ニハ非ル由答ヘタルニ付通商局長ヨリ和蘭印綿布輸入制限問題ハ我國ニ重大ノ影響アリ既ニ和蘭首相ノ申出ニ依リ滞英中ノ紡績聯合会代表ヲ近ク渡蘭セシメ親シク同国当業者ト会谈セシムル手順成リ居リ且和蘭首相ノ在蘭本邦公使ニ対スル内話モ有之ニツキ萬事ハ右會談ヲ了セル上ノコト、致サレ度本件輸入制限實施ノ場合ニハ(一)現ニ和蘭印非常時輸入制限令ノ計畫スルガ如ク單ニ輸入總量ノミヲ定ムルコトトシ國別割當制度ヲ避クルコト(二)輸入總量ヲ定ムル基礎数字ハ出来ル丈最新ノモノヲ採用スルコト及(三)当業者ノ会商ハ頭初「コライン」首相申出ノ通日蘭當業者間ニ限り英國ヲ参加セシメザルコト(此点ニ付テハ目下開催中ノ日印会商ニツイテモ兎角英國ノ裏面ニ於ケル活動ヲ云々スルモノアリ況ンヤ本件会商ニ英國ヲ正式参加セシムルコトトセバ不必要ナル疑念ヲ抱カシムル

ル旨ヲ答ヘ其ノ内容ノ詳細ニ付テハ目下之ヲ明言シ難キモ

イ、割當實施期日三ヶ月

ロ、酒精ノ含有率其ノ他ニ依ル品種別(從テ概ネ國別トナル)ヲ骨子トシ日本ノ利益モ充分考慮ニ入レ居ル次第ニシテ且右三ヶ月ノ間ニ充分協議シ得ヘキ旨ヲ附言シタリ尙九日山中ト面會スルコトヲ承諾セリ

ニ、同官ハ一般ニ日本側ノ行動ハ遅キニ過クルヲ以テ大體割當實施ヲ先ニシテ協議ヲ後廻シトスル態度ヲ取ルコトヲ餘儀ナクセシメタル旨述ヘタルカ此ノ點ハ本官ニ於テモ常ニ之ヲ憂慮シ累次電報セル通ナリ

三、右ニ明カナル如ク本邦側折角ノ統制モ手遅レトナリ割當實施ヲ阻止スルコト困難トナレルカ今後ハ割當制ノ内容詳細ヲ見タル上將來ノ立場ヲ有利ニ導ク様努力スルヨリ外ナシト思考ス

四、本件對策ニ關シテハ山中等ト協議ノ要アルニ付暫時内地ノ新聞ニ發表方御見合セヲ得度シ  
「スーラバヤ」「メダン」ヘ轉電シ、蘭ヘ暗送セリ

惧モアレバ之ヲ避ケラレ度キ旨ヲ述ヘ置キタル處公使モ充分之ヲ諒解セル由)ヲ申入レシメ置キタリ

英及「バタヴィア」ヘ轉電シ「バタヴィア」ヨリ「スラバヤ」ニ轉電シ「メダン」ヘ暗送セシメラレタシ

471 昭和8年12月6日 在バタヴィア越田總領事より  
 広田外務大臣宛(電報)

我が方蘭印向ビール輸出統制策實施遲延につ  
きビール輸入割當制を實施せざるを得ないと  
の農工商務長官談話について

バタヴィア 12月6日後発  
本 省 12月6日後着

第一三五號

往電第一三三號ニ關シ

一、六月農工商務長官ヲ往訪シ日本輸出協會ノ誠意アル統制ニ鑑ミ又其他同協會ヲシテ當國ノ希望ニ副フ様必要ナル方法ヲ採ラシメ得ヘキニ付割當制ヲ實施セサル様懇談的ニ極力交渉セル處日本側提案ノ餘リニ遲延セルコト及他外國輸入品ノ關係モ有リ豫定計畫遂行ノ外ナキ立場ニ有

472 昭和8年12月9日 広田外務大臣より  
 在バタヴィア越田總領事宛(電報)

蘭印におけるビール輸入割當制實施は我が方  
輸出統制実績見極め後のこととすべき旨蘭印  
政府へ申入れ方訓令

本 省 12月9日後8時20分発

第七〇號

貴電第一三五号ニ関シ

麦酒組合ガ累次往電ノ通輸出價格ノ統制及引上並數量制限等ヲ實施シ只管蘭印市場ノ實情ニ適應スル様努力シ來レルハ本邦側ノ統制ニシテ實効アラバ輸入制限ニ出デザルベキ蘭印政府ノ意嚮(貴電第一九号四)ニ期待セル結果ニシテ其ノ間遲延セル事情ハアルモ(右ハ商習慣トシテ三ヶ月ノ先物契約ヲ認メ居リ且又利害相等シカラザル多數業者ヲ擁スル組合トシテハ無理カラヌ次第ナルコトハ先方ニ於テモ察知シ得ルコト、思考ス)偶々「スラバヤ」宛往電第四八号ノ通輸出統制モ本格的ニ實績ヲ挙げ得ルコトトナリタルニ際シ突如輸入制限ノ措置ニ出ヅルニ於テハ自然來ルベキ綿布ニ関スル協議其他ニモ面白カラサル影響ヲ與フベク本

邦側ノ頗ル遺憾トスル所ニシテ先方ニテ更ニ本邦側ニ對シ何等カノ希望アルニ於テハ組合ニテハ檢討ノ上之ニ應ズル用意アルニ付輸入制限ハ今暫ク本邦側統制ノ實績ヲ見タル上ノコトニセラレ度旨再應蘭印政府へ御申入相成結果同電アリ度シ

蘭、「スラバヤ」「メダン」へ暗送アリタシ

473 昭和8年12月12日 在バタヴィア越田総領事より  
 広田外務大臣宛(電報)

ビール輸入割当制度に関する蘭印政府令公布  
 について

バタヴィア 12月12日後発  
 本省 12月12日後着

第一四三號

往電第一四二號ニ關シ

總督ノ命ニ依ル趣ヲ以テ一等書記官ヨリ十二日附總督決定(法令公報第四八四號)ヲ以テ麥酒割當制度ニ關スル政府令制定セラレタルカ内容ハ期間三ヶ月輸入可能總數量百十七萬五千立國別割當ハ一九三二年ヲ基礎トシ「ライセンズ」

テハ今回ノ會談ニテハ日蘭綿業ノ実情ヲ相互ニ充分説明セシメ彼我ノ眞意ヲ解ニ努ムルヲ主トシ其ノ結果ヲ見テ正式會商ノ諾否ヲ決定シ度キ意嚮ナリ然レトモ和蘭政府累次ノ説明ニ依リ和蘭ニテハ英印ト異ナリ本邦側ノ利益ヲモ相当考慮シタル上ノ提案ト思考セラルルヲ以テ政府トシテモ當業者ニ會商受諾方極力勸奨スル所存ナリ

日印會商モ最早終局ニ近ヅキ其ノ結果ハ我綿布ノ對印輸出モ茲一兩年ニ比シ著シク制限ヲ受クルコト、ナルベク從テ本邦綿業ガ他ニ捌口ヲ求ムルニ焦慮シ居ルニ際シ重要市場ノ一ナル蘭印ニ関スル有利ナル協定ノ成否ハ本邦綿業ニ重大ナル影響アル次第ナルニ付当初ヨリ注意周到事ニ處スル様御指導アリタク殊ニ蘭印ニ於ケル麥酒ニ関シ我方ガ銳意万難ヲ排シ輸出統制ヲ政行セルニ拘ラズ之ガ輸入制限ヲ實施セル例モアリ本件會談ノ進行中抜打的ニ綿布ノ輸入制限等ヲ實施スルガ如キナキ様御配慮アリタク又本件會談ニ於テハ「バタヴィア」発本大臣宛電報第一二六号(ニ)御参照相成様致度シ

英及「バタヴィア」へ轉電シ「バタヴィア」ヨリ「スラバヤ」及「メダン」へ暗送セシメラレタシ

ハ一九三一年ニ於テ規則的ニ輸入ニ從事セル輸入業者ニ下附ス既ニ航海中ノ積荷ハ一九三一年ノ輸入業者ニ對シテノミ之カ輸入ヲ許スモ夫々割當量ヨリ差引クコトナリ居レル旨電報アリタリ尙十三日より實施ノ由

「スラバヤ」へ轉電シ「メダン」、蘭へ暗送セリ

474 昭和8年12月14日 広田外務大臣より  
 在オランダ齋藤公使宛(電報)

我が方綿業当業者に日蘭正式會商受諾方勸奨  
 について

本省 12月14日後2時10分發

第八五號  
 貴電第一三三號ニ關シ

今次ノ訪蘭カ彼我當業者ノ交歡及意見交換ニ止マルコトハ往電第七五号ノ通ナルカ渡蘭綿業者一行ハ全部紡績關係ノ代表者ノミニシテ本邦綿業トシテ此外機業及輸出關係ノ團體モアリ全体ノ利益ヲ代表セシムル為ニハ右諸團體ノ意見ヲ取纏ムル必要アル次第ナリ從テ右一行丈ニテハ日蘭會商ノ諾否ヲ正式ニ決定スル資格ヲ有セサルヲ以テ當業者トシ

475 昭和8年12月15日 在バタヴィア越田総領事より  
 広田外務大臣宛(電報)

非常時輸入制限諸方策実施に関する蘭印側見  
 解とこれに対する我が方対策について

バタヴィア 12月15日後發  
 本省 12月15日後着

第一四八號

(一)往電第一四七號ニ關聯シテ經濟委員會書記長ノ腹藏ナキ所見ニ依レハ麥酒ノ輸入制限ハ既ニ本年五、六月ノ頃ヨリ問題トナリ居タルモノニシテ日本側ノ統制ナルモノハ愈制限令ノ準備成ルニ臨ミテ俄ニ之ヲ阻止センカ爲ナサレタルノ感アルノミナラス蘭印側ノ充分満足スル要素ヲ具ヘサルニ付右發令ハ全ク已ムヲ得サリシモノナリ又一九三二年ヲ割當ノ基礎トシタルハ本年ノ係數ハ餘リニ常規ヲ逸シタルモノナルト同時ニ未タ完了セサリシニ依リ蘭印ニ於テハ右ノ外今後非常時對策トシテ必要ニ應シ逐次幾多ノ制限令ヲ制定スヘク而シテ一度制定シタル以上有利ナル交換條件ノ提供ナキ限り變更困難ナルヘク更ニ進ンテハ貿易均衡ヲ目的トスル商業政策實施ノ爲緊急施

設ヲナサントスルモノナレハ日本カ有利ナル立場ヲ持續セント欲セハ早キニ及ソテ交換條件ノ提示又ハ蘭印ヨリノ買付増加ヲ計ルコト必要ナルヘシト

(二)以上ハ大體蘭印側ノ忌憚ナキ方針ノ告白ト見ルヲ得ヘク從テ今後我方トシテハ

(イ)從來屢々先方ヨリ申出テ居ル砂糖其他蘭印ノ物産ヲ現在以上ニ買付クルノ方法ヲ講シ其程度ニ應シ制限令等ヲ緩和セシムルノ方針ヲ取ルコト(蘭印ハ必スシモ直ニ對日貿易總額ノ均衡ヲ求ムルモノニ非ス)又ハ

(ロ)棉業ニ關スル海牙會商ヲ何等カノ方法ニテ續行シ又ハ別ニ會商シ日、蘭印間ノ通商全般の問題ヲ審議シ且場合ニ依リテハ互惠協定締結ヲ試ミルコト

(ハ)若シ右二トモ我ニ困難ノ事情アラハ從來通り成行ニ委シ制限令等實施ノ都度對策ヲ講スルノ外ナカルヘキモ是等非常施設ヲナスニ當リ先方ニ於テハ條約ニ抵觸セサル様一應ノ注意ヲナシ居ルヲ以テ我方ヨリノ單純ノ抗議ニ付テハ(明ラカニ條約違反又ハ不當ノ區別待遇等ノ場合ヲ別トシ)考慮ヲ拂フコトカルヘキノミナラス他方蘭印ニ對シテハ印棉不買ノ如キ武器ナク此點我

(一)蘭印政府カ往電第一四八號(一)ノ如キ方針ニテ進ムコトハ主トシテ少數ノ資本階級ヲ利スルノ外一般ニ生活費ヲ高メ大衆ヲ益々疲弊セシメ若シ永續スルニ於テハ遂ニ民心離反シ怨嗟ヲ高メ蘭人自ラ墓穴ヲ掘ルノ結果ヲ來スノ惧レアリ蘭印統治ノ大局ヨリ見テ賢明ノ策ニ非サルカ如キモ當局トシテハ非常時切抜ケノ一時的の方便トシテ強行セントスルモノナレハ我方ニ於テハ之ヲ認識シテ對策ヲ講スルノ要アルヘシ

(二)砂糖其他ノ農産物ニ付テハ今俄ニ多量買付困難ナリトセハ石油ヲ始メトシテ軍用ニ供シ得ヘキ蘭印物資所謂一九三六年ノ危機ニ備フルノ意味ヲ含メテ長期契約ニ依リ軍部ヲシテ買溜メシムルノ途無キヤヲ研究スルモ一方法カト思考セラル

(三)前記及其他ノ方法ニ依リ對蘭印貿易ヲ相當程度ニ均衡セシメ今後本邦品ノ輸入ニ對シ制限的措置ヲ爲サシメサルノ互惠的協定ヲ締結シ以テ

(イ)貴電合第二一二七號ノ歐米協同戰線ノ形勢ヲ事前ニ防止スルト共ニ(ロ)聯盟脫退後仲裁裁判條約ノ締結ニ依リ開始セラレタル政治的國別協調主義ヲ經濟上ニモ徹底セ

方ニ通商上ノ弱味アルヲ以テ假令抗議ヲ重ヌルモ效果渺ナカルヘク最悪ノ場合ハ却テ條約廢棄ノ舉ニ出テシムルノ恐レナキニ非サルヘシ

(三)日本ハ果シテ如何ノ蘭印産物ヲ現在以上ニ買付クルコトヲ得ヘキヤ不明ナルモ日本ノ對外貿易上入超關係ニアル國ヨリノ輸入ヲ減シ多少ノ不便ヲ忍ンテモ代品ヲ蘭印ノ如キ出超國ニ求ムル様貿易ノ調整ヲ行ヒ得ル爲我貿易機構ヲ編成スルコト急務ト思考ス

蘭へ轉電セリ

「スーラバヤ」「メダン」へ暗送セリ

476 昭和8年12月15日 在バタヴィア越田總領事より 広田外務大臣宛(電報)

對蘭印貿易均衡化による蘭印側輸入制限措置回避の必要性とこれが我が方現下通商關係諸問題に及ぼす好影響について

バタヴィア 12月15日後発 本省 12月16日前着

第一四九號(極秘)

シメ且(ハ)今後濠洲ノ如キ對本邦輸出超過國ニ於テ追從スヘキ適例ヲ示スコト緊要ナルヘシ 右ハ非常ナル決心ヲ要スヘキモ事態ニ引摺ラレ不利ナル條件ノ押付ヲ待ツヨリモ共存ノ建前ヨリ見テ遙カニ有利ナルヘシト思考セラル(經濟委員會書記長モ積極的ニ日本ヨリ此ノ種提案アラハ心理的ニ偉大ナル効果アルヘク期待スル旨熱心ニ語レリ)

477 昭和8年12月18日 在オランダ齋藤公使より 広田外務大臣宛(電報)

我が方渡蘭綿業者の首相との会見およびオランダ綿業者との意見交換について

ハーグ 本省 12月18日前着

第一三五號

(一)綿業代表一行四名十五日朝海牙着、同日本使ハ「コライシ」首相「グラーフ」外相等ヲ午餐ニ招待一行ヲ紹介セリ席上「コ」首相ヨリ一行ニ對シ當業者會合前會見ノ申

出アリ一行之ヲ諾ス

(二)十六日午前一行ハ先ツ「コ」首相ヲ往訪、「コ」ハ現下蘭印ノ綿布輸入状況ヨリ見テ一先ツ現状ノ儘事態ヲ固定セシムルコト必要ナルニ依リ假措置トシテ割當制ヲ實施スルコト適當ト認ムル旨ヲ語リタルニ依リ我代表ヨリ日蘭會商ノ結果ヲ待タスシテ右割當ヲ實施スルコトハ徒ニ日本ノ感情ヲ害スルニ止マルヘキコトヲ述ヘタルニ「コ」ハ之ヲ首肯シ自分ハ確約ヲ爲スヲ得サル立場ニアルモ將來ノ會商力速ニ開催セラルルナラハ出來得ル限リ其ノ結果ヲ待ツコトトシ夫迄何等措置ヲ見合スコトヲ考慮スヘク成ルヘク速ニ日蘭會商ヲ行フ爲ニハ會商地ヲ瓜哇(ウヰ)トスルコト適當ナルヘシト述ヘタリ依テ一行ヨリ右會商ニ付テハ出來得ル限リ日本側ニテ之ニ應スル様「リコメンド」スヘシト答ヘ更ニ午後會見スルコトヲ約シ辭去セリ

(三)<sup>(2)</sup>一行ハ更ニ同日午前十一時ヨリ和蘭側當業者「ヘルダーマン」以下六名ト會合先方ハ本邦側ニ何等力腹案アリヤト尋ネタルニ付我方ヨリ本件會合ハ和蘭側ノ希望ニ基キ之ニ應シタル次第ニテ和蘭側ノ意嚮ヲ承知スル爲訪問セルモノナレハ當方ハ何等ノ申出ナシト述ヘタルニ和蘭側

蘭ノ一九三二年度對蘭印輸出額ヲ維持スルコトヲ主眼トスル案ヲ日本側力受諾セラルルナラハ將來全般的ノ通商條約ヲ互惠の立場ヨリ改訂スル迄他ノ綿製品ニ付テハ全然問題トセサルヘシト述ヘタリ依テ我代表ハ「キャンブリック」ノ一九三二年度輸入量ヲ基礎トスルヨリモ輸入率ノ方合理的ナルカ如ク思考スト答ヘタルニ「コ」ハ近日中ニ右ノ點ヲ具体案トシテ公使ヲ通シ提案スヘシト述ヘ且日本側ニ於テ右ノ案ニ考慮ヲ加ヘラルル様盡力セラレタシト言ヘルニ依リ我代表ヨリ貴提案ヲ見タル上右合理的ナルニ於テハ日本側ニ對シ之カ應諾ニ付盡力スヘシト答ヘ會見ヲ終リタリ

(四)以上ノ次第ニテ今回ノ會談ハ和蘭側當業者ヨリ和蘭綿業ノ實狀ヲ聴取セル以外政府側ノ意嚮ヲ明確ムルヲ得充分ナル結果ヲ収メ得タルモノト認メ得ヘキ處首相ト我代表ノ會見ハ當國ニ於テ秘密ニ附セラレ會見ノ事實スラ外部ニ發表セス首相ヨリモ懇望ノ次第モアリタル趣ナレハ我方ニ於テモ新聞ニ發表ナキ様御配慮相成度シ本電内容ハ紡績聯合會ヘ御傳ヘヲ請フ英、「バタビヤ」ヘ轉電セリ

ハ實ハ本件會商ハ和蘭政府ノ斡旋ナルモ自分等ハ全く關知セス突然ニテ腹案等モ無キ次第ナルカ和蘭綿業衰微ノ現状ニ鑑ミ將來日本側ト一切ノ綿布ニ關シ會商ヲ行ヒ度日本綿布ノ輸入ヲ圓價下落前即チ一九三一年以前ノ數字位ニ止メラルルコトヲ希望スルモノナリト述ヘタルニ付我方代表ヨリ右ハ全く是迄承知シ居ル處ト異リ日本政府ヲ通シテノ話ニテハ或種ノ品種ノミニ付テ何等カ話合ヲ爲スコトト承知シ居リタルモノナレハ綿布全体ト云フカ如キコトニテハ全く異リタル話トナリ之ニ應スルコト困難ナリト應酬シ結局日蘭當業者ハ蘭印ニ於ケル綿布問題ニ付意見ヲ交換シ日本側ハ和蘭側ノ意見ヲ本國ニ傳達スルコトトナレル旨ノ「コムミュニケ」ヲ發表シ會合ヲ終ヘ午餐ヲ共ニシタル上散會セリ

(四)<sup>(3)</sup>同日午後四時ヨリ一行「コ」首相ヲ往訪我方ヨリ本日ノ當業者會合ニ於テハ全く意外ニテ日蘭會商ニ於テ一切ノ綿布ニ付討議スヘク數字モ一九三一年以前ノモノヲ基礎トスルト云フカ如キ不合理ナル意見ヲ述ヘタルカ右從來ノ御話ト異ル處多ク承服シ難シト述ヘタル處「コ」ハ熟考ノ上和蘭政府ニテハ「キャンブリック」ニ付テハ和

「バタビヤ」ヨリ「スーラバヤ」ヘ「スーラバヤ」ヨリ「メダン」ヘ轉報アリタシ  
~~~~~

478 昭和8年12月19日 在オランダ齋藤公使より 広田外務大臣宛(電報)

我が方渡蘭綿業当業者と首相との会見内容に  
鑑みた蘭印での綿布輸入制限問題に対する今  
後の我が方対処策について

第一三七號  
往電第一三五號ニ關シ  
ハীগ 12月19日後発  
本省 12月20日前着

棉業代表一行カ「コライン」首相ト面會セル結果ニ依レハ和蘭政府側ノ意嚮ハ大体「キャンブリック」ニ付一九三二年和蘭ノ對蘭印輸出量ヲ維持シ得レハ満足ナリトナスモノノ如キ處右ニ關スル卑見左ニ申進ス  
(一)割當適用ノ際ハ數量ヲ決定セス蘭本國ヨリ輸入セラルヘキ數量ノ蘭印全需要量ニ對スル比率ノミヲ決定スルコト蘭印市場ノ將來ヲ考慮シ需要増ス場合ニモ需要減ノ場合

ニモ彼我同一ノ影響ヲ受クルコトトナリ單ニ數量ヲ制限スル場合ニ比シ我方ニ有利ナルヘキカト思考ス（「キヤ」ノ需要減ヲ考慮シ）

(二)比率ニ關シテハ我方ヨリ一九三三年度ノ數字ヲ主張ストモ先方ニテ恐ラク應セサルヘク一九三三年、三二年ノ平均比率位ニテ妥協ヲ試ミルコト適當ナルヘシ

(三)蘭印ニ於テ當業者會商ヲ行ヒ我立場ヲ有利ナラシムルコト必要ナルヘク右會商ニ於テ比率ニ依ルカ又「セメント」協定（和蘭側ニ利益分配ヲ與フル案）ノ如キ方法其他我方ニ有利ナル方法ニ依リ解決ヲ計ルコト

今後和蘭政府側ヨリ具体的提案アルヘキ處差當リ當地ニ於テハ割當ハ「キャンブリック」ニ限ルコト及割當方法ニ關スル話合ヒニ止メ蘭印會商ニ於テ最後の決定ヲナス方針ニ出ツルコト得策ナルヘシ

(四)現内閣出現以來和蘭ノ通商政策ハ互惠主義の色彩濃厚トナリ最近非常時輸入法改正法案議會ヲ通過シ近ク實施ノ旨ニテ割當制度ニ關スル限リ和蘭ハ最惠國條款ヲ適用セサル方針ナル如ク右ハ經濟大臣ノ議會ニ於ケル演説及外相ノ説明等ニ徴シ明カナルカ蘭印問題ニ關シテモ此ノ點

官ガ「コライン」首相ト話合來リタル次第ニモアリ一応日蘭當業者會商セル事實ハアルモ此際蘭國政府ノ提唱セル當業者會商ヲ日蘭兩政府間ノ問題ニ移シ大体貴電第一三七号ノ「ライン」ニテ至急話ヲ取纏メ度ク就テハ左記ノ趣旨ニテ御交渉ノ上結果電報アリタシ

一、蘭本國綿業保護ノ目的ヲ以テ「ホワイト・キャンブリック」ノミニ付蘭印全需要（又ハ輸入）ニ對スル蘭本國品ノ蘭印輸入比率ヲ定ムルコト（其結果蘭印ニ於ケル割當制度ハ（一）蘭本國ノ比率即數量ト（二）其ノ他ノ國全体ニ對スル比率即數量トナリ（三）ノ範圍内ニ於テ自由競争ヲ認メラルヘニ於テハ我方ニ極メテ有利ナルモ右不可能ナル場合ニハ各國別トシ麦酒ノ制限令ニ倣ヒ「ライセンス」ヲ他國品ニ振向ケ可能ナラシムルコトモ一方法ナルベシ）

二、比率ニ關シテハ貴見ノ通り一九三二年及一九三三年ノ平均比率ニテ御交渉アリ度ク已ムヲ得ザレバ一九三二年ノ數字ヲ基礎トスルモ差支ナシ

三、本件ハ冒頭貴電（四）ノ「コ」ノ言質ニ立脚セルモノニシテ品質モ「ホワイト・キャンブリック」ニ限リ今後他ノ綿製品ニ對シ何等ノ制限措置ニ出デザルコトヲ條件トシ又

慎重考慮ヲ要スヘク互惠主義ニ基ク通商條約ノ改訂ハ早晚問題トナルヘキカト認メラルルニ付豫メ御考慮置キ相成ルコト然ルヘシト存セラル  
右御參考迄  
英、「バタバヤ」ヘ轉電セリ

479

昭和8年12月22日

広田外務大臣より  
在オランダ齋藤公使宛（電報）

日蘭綿業當業者會商を兩國政府間交渉に移行

し蘭印での綿布輸入割當問題をオランダ政府

側と交渉すべき旨訓令

本省 12月22日後9時0分発

第九二號

貴電第一三五号ニ関シ

日蘭當業者會商ニ對スル蘭國官民ノ見解ニ相当扞格アリ此ノ現状ノ下ニテ彼我當業者ヲ會商セシムルモ到底満足ナル結果ニ到達シ得ザルハ自明ノ理ニシテ徒ニ當業者會商ノ為ニ時日ヲ遷延セシムルトキハ第三國當業者介入等モ予想セラレ事態ヲ益々紛糾セシムル惧モアレバ折角本件ニ関シ貴

期間モ將來日蘭兩國ガ全般的ノ通商關係ヲ律スル為ニ協議（通商條約改訂ナル語句ハ避ケ度シ）ヲナスノ必要生ズル迄ト致度シ

本件交渉成立ノ暁ハ右交渉ノ結果ニ基キ蘭印ニ於テ「キヤ」ノ割當制度ヲ實行スル段取リトナルベキ處御承知ノ通り從來蘭本國ト蘭印トノ利害必ズシモ一致シ居ラズ旁蘭印ニ関スル事項ニツキ本國ト勝手ニ交渉ヲ行ヒタルモノトシテ蘭印ニ反感ヲ抱カシムルガ如キ「ナキ様可然御措置アリタク殊ニ綿布ニ付テハ蘭本國ノ「キヤ」保護ニ對シ蘭印ニテハ「サロン」工業保護ヲ高唱シ居ル關係上我方ガ蘭印側ノ欲セザル「キヤ」ヲ協定セルコトヲ知ラバ最近本邦品ニ對シ制限措置ヲ執ル傾向濃厚トナリシ蘭印ニ本邦品阻止ノ口実ヲ與ヘ甚ダ面白カラズ殊ニ蘭印ニ於テ此種危險ニ曝サレ居ル邦品相当アルベキニ付右事情ニ關シテハ可然「コライン」首相ノ考慮ヲ求メ置カレ度シ

又恐ラク杞憂トハ存セラルヘモ日蘭間ニ蘭印ノ「キヤ」輸入協定成リ蘭本國ノ地位ヲ確保シタル後蘭本國ガ英國等ト蘭印ニ輸入セラルヘ「キヤ」其ノ他ノ綿布ニ付協定

ヲナシ我方折角ノ協定ノ効果ヲ減殺セシムルガ如キ一ナ  
キヤハ我方当業者ノ最モ懸念スル所ナルニツキ右御含置  
ノ上適宜御措置アリタシ  
英「バタヴィア」ニ轉電シ「バタヴィア」ヨリ「スラバ  
ヤ」「メダン」ニ轉電セシメラレ度シ

480 昭和8年12月25日 在スラバヤ姉齒領事より  
広田外務大臣宛(電報)

蘭印での綿布輸入割当問題への対処策として  
我が方当業者組合による生産・輸出統制の必  
要性などにつき意見具申

スラバヤ 12月25日後発  
本省 12月25日後着

第一〇九號

日蘭綿布協定ニ關シ當地出張中ノ越田總領事ト協議氣附ノ  
點左ノ通申進ス

一、「セメント」及麥酒ノ苦キ經驗ニ鑑ミ此ノ際速ニ大小ノ  
晒綿布製造家ヲ包含スル組合ヲ作り先ツ生産統制ヲ準備  
シ日蘭比率決定ノ場合何時ニテモ内部ニ於ケル出荷比率

481 昭和8年12月29日 在オランダ齋藤公使より  
広田外務大臣宛(電報)

蘭印での綿布輸入割当問題に関する蘭印側態  
度決定とこれに基づくオランダ側からの具体  
案提示を待って交渉を進めたい旨上申

ハーグ 発  
本省 12月29日前着

第一四一號

貴電第九二號ニ關シ  
往電第一三五號(四)申進ノ通「コライン」首相ニ於テハ本件  
割當ニ關スル具體案ヲ作成シ本使ニ提示スル筈トナリ居ル

ヲ確定シ得ル用意ヲ爲シ置クコト極メテ肝要ニシテ出來  
得レハ輸出業者ヲモ右組合ニ加ヘ生産輸出統制ヲ計リ置  
クコト可然

二、蘭印政府ハ麥酒國別輸入量ノ基礎ヲ一九三二年ノ統計ニ  
取りタルニ拘ラス蘭人輸入商ノ運動ニ依リ輸入商ヲ一九  
三一年ノ輸入者ニ限リタル結果邦人輸入商ハ極メテ微々  
タル數量ヲ輸入シ得ルニ止マリ特ニ客年以來輸入開始セ  
ルモノハ全ク輸入出來サルコトナレリ而シテ「キヤン  
ブリック」ニ關シテモ蘭商等ハ必スヤ邦人輸入商排斥ノ  
策動ヲ爲スコト疑無キヲ以テ日蘭交渉ニ當リテハ基礎的  
數字ヲ取りタル當該年度ノ輸入業者ニ其輸入比率ヲ保持  
セシムルコト必要ナリト存ス

三、「キ」ノ客年輸入總量ニ對シ邦品三割五分七厘強ナルカ  
之ニ對スル日蘭兩省ノ輸入割當ハ邦商六割三分強又本年  
十月迄ノ輸入總量ニ對シ邦品八割四厘強ナルカ之ニ對シ  
邦商輸入割合五割五分強ニシテ蘭商ノ邦品取扱商増加シ  
ツツアリ御參考迄

蘭「バタビヤ」へ轉電シ「メダン」へ暗送セリ

處其後「コ」ニ面會ノ際「コ」ハ目下蘭印總督ニ對シ蘭印  
側ノ意嚮ヲ電照中ナル旨ヲ語り居タルヨリ見テ蘭印側ノ態  
度未決定ナル爲我方ニ提案シ來ラサル次第ト認メラル就テ  
ハ貴電御訓令ノ趣旨ニ依リ當方ヨリ和蘭側ニ申入ヲ爲スコ  
トハ今暫ク差控ヘ蘭印側ノ態度決定ヲ見タル上先方ノ提案  
ヲ基礎トシ話ヲ進ムルコト貴電(三)蘭印側ノ我方ニ對スル反  
感ヲ避クルノ點ヨリモ然ル可キカト存セラルルニ付左様措  
置致度右御含置ヲ請フ  
英「バタビヤ」へ轉電セリ  
「バタビヤ」ヨリ「スラバヤ」「メダン」へ轉電アリ度シ